

令和5年度第1回茨城県男女共同参画審議会

1 日 時

令和5年8月24日（木）14時00分～16時00分

2 場 所

茨城県庁9階 901会議室

3 出席委員（敬称略、五十音順）

阿部 重典（(株)茨城放送 代表取締役社長）
有馬 慧（弁護士（有馬総合法律事務所））
大澤 幸子（茨城プロダクション代表）
大芝 静香（茨城県学校長会副会長）
長田 佳世（茨城県産婦人科医会副会長）
西連寺 節子（茨城県女性団体連盟会長）
助川 千夏（臨床心理士、キャリアコンサルタント）
清山 玲（茨城大学人文社会科学部教授）
土井 宣弘（(株)常陽銀行人事部担当部長兼ダイバーシティ推進室長）
直井 雄一郎（イバラキノミライ代表、CAMEO COFFEE COMPANY スタッフ）
中島 美那子（茨城キリスト教大学文学部教授）
山口 仁美（連合茨城女性委員会幹事）
横田 祥（(有)横田農場米粉加工部門部長）
（計13名）

4 内 容

（1）開会

（2）あいさつ

（3）委員等紹介

（4）議事

茨城県男女共同参画基本計画（第4次）の概要及び進捗状況について

（5）報告事項

- ①茨城県ダイバーシティ推進センターの取組について
- ②いばらき保育人材バンクについて
- ③建設業分野での女性活躍に資する取組
- ④その他

（6）閉会

<配布資料>

資料 茨城県男女共同参画基本計画（第4次）の概要及び進捗状況について

参考資料 茨城県男女共同参画基本計画（第4次）の関連施策一覧

報告資料1 茨城県ダイバーシティ推進センターの取組について

報告資料2 いばらき保育人材バンクについて

報告資料3 建設業分野での女性活躍に資する取組

5 結 果

- ・開会にあたり、茨城県県民生活環境部 須能次長が挨拶を行った。
- ・議事について、事務局から説明を行った後、議論が行われた。主な意見は下記のとおり。

＜主な意見＞ ※記載は発言順

- ・参考資料の関連施策について、精査が必要だと思う。何で男女共同参画と関係するのかと思う取組があるので、男女共同参画の視点で行われている旨、少し加筆していただきたい。
- ・関連施策の記載について、男女共同参画と関連性の薄いものが散見される。男女共同参画に関連する施策であることをすべての部局でしっかりと考えて欲しいと、今回複数の委員から要望があったことを各部署に知ってほしい。
- ・茨城県が実質待機児童をゼロにするのであれば、最低限 10 月 1 日の待機児童数をゼロにする必要がある。自治体によっては申請件数等と入園者の乖離が相当あると思うので、そこは県としてチェックをした方がいいと思う。
- ・待機児童について、実際、希望する形で、安心して生活できる状況にまだない所もあるので、それらも含めて改善が見られるような、そういう動きに繋がっていけばいい。
- ・働く方には、いろいろな理由がある。働く方のニーズや、特にシングルのお母さん方をサポートするような意味で、保育は重要なキーポイントだと思っている。その辺をこの審議会からの意見として出せればと思う。
- ・セクハラやパワハラに関する相談窓口を設置するというのは良いが、問題が起きてから相談するだけではなくて、セクハラ・パワハラ防止に関する周知活動をもう少しすると良いと思う。
- ・男女共同参画の動きは随分前から進んできて、積極的に頑張っているいろいろな企業さんが取り組んできたと思うが、そういうところと、なかなか進まないところとの差が出てきているのかもしれない。女性登用がまだまだ進んでいない企業さんも相当程度あると思うので、そういったところをどのように後押ししていくか、その辺がないと民間企業の女性の上位職への登用に繋がらないのではないかと。
- ・保育所や幼稚園、こども園で働いていたが辞めた人たちと関わる中で、かなりの割合で辞めた理由は人間関係と聞く。「いばらき保育人材バンク」のマッチングで就職したけれど、上手くいかなくて辞めた時に、実はこういう点が自分は園と合わなかったのだと、そういう相談ができる場があると良い。なおかつ、多数の訴えを聞くようであれば、その園に対して何かしらの介入みたいなものがあると、「いばらき保育人材バンク」への信頼感も出るのではないかと。
- ・LGBTの問題もあるので、多目的なスペースといった環境改善が進んでいるが、そういったハードの部分と、受け入れ側の知識も大切だと思う。
- ・「家族経営協定の締結」を指標にしているが、時代とともに当たり前の形になってきているので、これをずっとこの指標にしていくかどうかと思う。
- ・茨城県は県全体の女性農業者のネットワークというのがあまりない。唯一あるのが女性農業士で、認定されると県全体での繋がりができるが、売り上げ年収だったり、耕地面積だったり認定のハードルが高い。ハードルを下げる取り組みをしていただくと、県全体の女性農業者の顔を合わせる場面も増えて活動も活発になっていくかと思う。
- ・2023年のジェンダーギャップが6月に発表になったが、日本は125位ということで非常に低く、前の年より下がった。押し下げているのが政治と経済。国会議員の方が非常に少ないというのが大きく影響しているので、国政に出られる方や地方議員などを茨城からどんどん押し上げて、最終的には国政や政治の舞台に繋がるような、そんな動きに結び付けばいいんだろうと思う。
- ・女性の方々にも活躍していただくためには、女性目線であったり女性に合わせるということ。それは、男性にとっても快適な環境であることに繋がってくると思うので、そういうところを軸に、女性の方々をたくさん受け入れたり、働きやすい環境というのを進めていったりしていただければいいのではないかと。